Patrick Blanc

パトリック・ブラン

増殖する垂直庭園

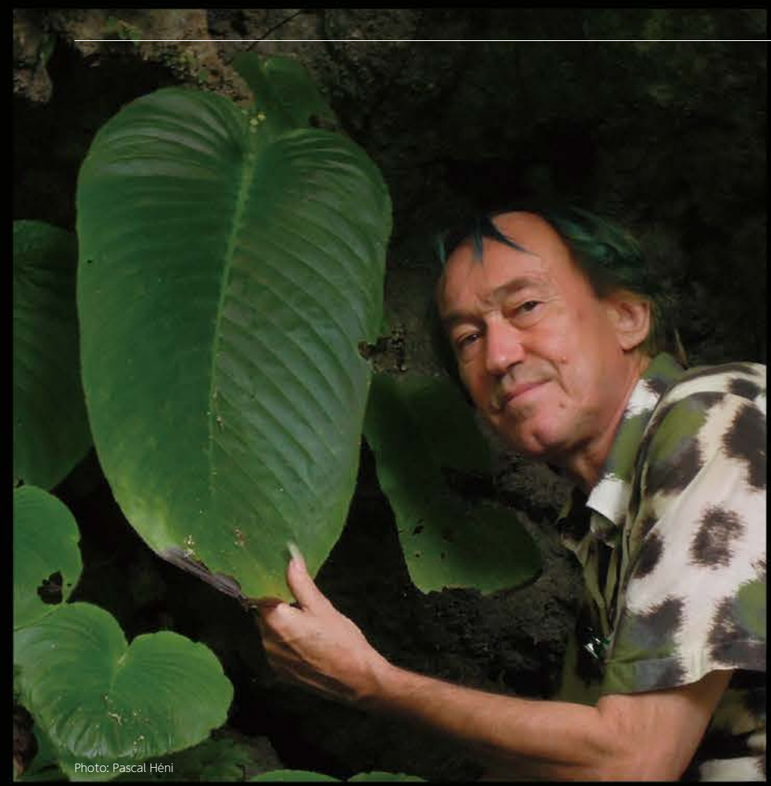

Photo: Pascal Héni

パトリック・ブランは1953年パリ生まれの植物学者兼アーティスト。熱帯雨林の岩肌に生える植物の研究で活躍し、1986年より植物を垂直壁に構築する「垂直庭園（Vertical Garden）」の制作を始める。2005年のケ・ブランリー美術館の壁面緑化で世界的な評価を確立し、これまで世界中で200を超える垂直庭園のプロジェクトを手掛けてきた。ジャン・ヌーベルやヘルツォーク&ド・ムーロンなど著名建築家とのコラボレーションも数多。

近年では特に大規模な屋外での垂直庭園の事例に注目が集まるが、40年ほど前に彼が世界で初めて独自の手法—金属枠に塩化ビニルシートの防水層、耐蝕性と保水性のある化学繊維のフェルト層を組み合わせた植栽基盤—を開発し実現したのは、観葉植物を使った室内の垂直庭園であった。屋内緑化は、その後の壁面緑化の幅広い可能性を拓くこととなった彼の垂直庭園の原点だったとも言えるだろう。

もっとも彼にとって、というより植物にとって、人間の生活様式からの屋内外の区別はさほど重要ではない。重要なのは、光や温湿度等がその植物に適切な生育環境となるかどうかだ。植物学者としての豊富な知識の裏付け、植物に対する愛情、卓越した構想力でブラン氏が生み出す垂直庭園は、デザイン性に優れると同時に、環境と植物との完璧なマッチングによって、生物多様性を尊重するエコシステムをも作り上げている。

日本では、金沢21世紀美術館のほか、東京のCoSTUME NATIONAL Aoyama Complexでブラン氏の垂直庭園の事例を見ることができる。また現在、新山口駅自由通路での壁面緑化のプロジェクトが進行中。

パトリック・ブラン自邸（パリ　フランス　2009年）

2000匹の熱帯魚が泳ぐ6×7mの巨大水槽の上にしつらえた自宅オフィスにて、垂直庭園の傍らで仕事をするブラン氏。室内でも常に自然の生命力を感じられる空間になっている。

Patrick Blanc's House, Paris, 2009
Architect: Gilles Ebersolt
©Patrick Blanc

ジェノヴァ水族館（イタリア　1998年）

レンゾ・ピアノによる改修にともなって設置された、熱帯雨林の生物多様性を連想させる緑化壁。サトイモ科、パイナップル科、イワタバコ科やクワ科の岩肌に生える着生植物やシダ類が多く使われた。

Aquarium Nave Genova, Italia, 1998
Architect: Renzo Piano
©Patrick Blanc

Quai Branly Museum, Paris, 1998
Architect: Jean Nouvel
©Patrick Blanc

ケ・ブランリー美術館（パリ　フランス　2005年）

館内の展示品に合わせ、アフリカ、オセアニア、
アジアの植生をイメージした壁面緑化は
世界的に有名な風景となった。
外壁にとどまらず、オフィス内にも壁面緑化が施されている。

サイアム・パラゴン（バンコク　タイ　2005年）

高級大型商業施設における屋内壁面緑化。
「ハンギング・フェンス」と名づけた、熱帯雨林の木々の幹に見立てた帯状の緑化壁から、アンスリウム・ビタリフォリウムやディスキディアなどの着生植物が長く垂れ下がる。

Siam Paragon Shopping Mall, Bangkok, 2005
Indoor Architects: Jacqueline et Henri Boiffils
©Patrick Blanc

Phytouniverse, New York, 2006
©Patrick Blanc

ニューヨークの目抜き通り角地にある高級スパ&ヘアサロン。
遠くからは外壁のようにも見えるが、過酷な外気温の変化を避けるため、ウインドウ内に緑化壁を設置。夜景が美しい。

フィトユニバース（ニューヨーク　アメリカ合衆国　2006年）

クラブメッド（パリ　フランス　2007年）

旅行代理店の店舗。旅先の自然の魅力を彷彿とさせるアフリカ、アメリカ、アジア大陸の熱帯地方をイメージした緑化壁。
高さがない場所という制約が、異なる熱帯の自然を帯状に横でつなぐ表現手法の発端となった。

Club Med, Paris, 1998
©Patrick Blanc

プラン氏の屋内緑化としては最大の50ｍ以上の横幅の作品。豊富な地元の植生からメディニラなどを初めて使用した。長距離飛行の旅人を自然へと再びつなぐ緑の空間。

カンタス空港　ラウンジ（シドニー　オーストラリア　2007年）

Qantas Lounge Sydney, 2007
Architect : Marc Newson
©Patrick Blanc

J&T カフェ・バンカ（ブラティスラヴァ　スロバキア　2010年）

銀行の一角のカフェ内の壁面緑化。鏡とウインドウによっておもしろい反射効果が生まれ、境目なく熱帯雨林が広がるような印象を受ける。

Green Symphony, Taipei Concert Hall, 2007
©Patrick Blanc

コンサートホール（台北　台湾　2007年）

グリーン・シンフォニーと名づけられた、台湾の伝統的な様式で建てられたコンサートホールの正面入口の緑化壁。植栽を含め3カ月足らずの非常に短い工期で完成された。

J&T Café Banka, Bratislava, 2010
Architect: Mimolimit
©Patrick Blanc

Parking Perrache, Lyon, 2010
Architect: Dominique Bourreau-Atelier Arche
©Patrick Blanc

ペラーシュ駐車場（リヨン　フランス2010年）

8階層からなる駐車場で、冬は氷点下、夏は40℃近くなる過酷な環境。自然光はなく補助的な照明が必要。わずかな光と外気温の変動幅に耐えうる、熱帯から亜熱帯の山岳地帯や極東の林床層に生える植物を選定した。思いがけない場所の緑化のように見えるが、緑化壁はパーキングの空気の浄化にも役に立つ。

ホテル・アイコン（香港理科大学内　香港　2011年）

ホテルロビーの壁面緑化。当初は四角い緑化壁が予定されていたが、中央を抜ける橋を包み込むような有機的な形態を提案。

Icon Hotel, Hong Kong, 2011
©Patrick Blanc

ソフィテル・パーム・ジュメイラ（ドバイ　2013年）

ホテル内の壁面緑化、鏡との反射の効果がおもしろい空間となっている。花を咲かせているのはコルムネア・アルグタ。このような状態に持って行くには、植物の選定が非常に重要である。

Sofitel Palm Jumeirah, Dubai, 2013
Architect : MIRK
©Patrick Blanc

キャピタランド（バッテリーロードシンガポール　2011年）

「レインフォレスト・ラプソディ」オフィスビルのメインロビー。125種以上で構成され、屋内緑化では最多品種を用いた作品のひとつ。斜めのラインは岩場や樹上に生息する着生植物が自然に育っていく形態に沿ったデザイン。

Capitaland,6 Battery Road, Rainforest Rhapsody, Singapore, 2011
©Patrick Blanc

NODA（イシー＝レ＝ムリノー　フランス　2015年）

オフィスビル内の食堂スペースの壁面緑化。エクメア、メディニラ、ペゴニアや様々なつる植物が天井のケーブルを這い始めている。

NODA, Issy les Moulineaux, France, 2015
Architect: Franck Michigan
©Patrick Blanc